

【実録！青春のときめき2、初めてのラブホテル！】最終版

① 田舎の高校を卒業して、1年経ったころ彼女から誘われて、野田阪神の駅前で会った、時間は夜の7時頃、日が落ちてもまだ薄明りの残る日の長い夏の日だった、金魚のさわやかな柄の浴衣を着て、いつもとは違う色っぽさにドキドキした思いがあった。生れて初めてのデートで、戸惑いながらも手を繋いで、ここから一駅ぐらいの大阪梅田駅に向かった。

とりとめのない話をしながら、あっという間に大阪駅前についた、行く当てはなかったが御堂筋を南に難波へ行こうかということになり、歩き始めた、御堂筋のきらびやかなネオンの明かりに気持ち昂揚！夢ごごちで強く手を握ると、握り返してきた、天国を歩いているようなふわふわと浮いたような気持ちでこのままズーと歩き続けたい気持ちだった。

② その頃の梅田駅前は開発前で阪神百貨店の裏には違法な売春宿が何軒かあった、ポン引きのおばちゃんが客引きをしておりある時その気になって興味本位に手を引かれてついていったことが有った、二階の狭い部屋に通された、四畳半である、ここで待っていてと言われ、ドキドキしながら待っていると、さっきのポン引きのおばさんが出てきてびっくりしていると、早くズボンを脱いでと言って、スッポンポンで横になり、怒り切った私の肉棒をつかみ、おまんこに導きいれた、情緒もなんもあったものではない余計な労力は使いたくないと言わんばかりで、“イッタラ終わり！イッタのね” 離れて！と機械のごとく味気ない初めての経験だった。

③ 社員旅行で宴会の時、目をつけていた女の子と示し合わせホテルの外へ連れ出した。観光バスの影に隠れるようにして、長いキッスをした。たまらず右手は浴衣をめぐり蜜部をまさぐる、ベトベトのおまんこからは汁が噴出しているようだ、人差し指と薬指を手のひらでおまんこを包み込むようにして指を入れ膣上壁を圧迫すると悶えながらもっと強くして！イクーと達したようだったた、立ったままの姿勢では挿入までいけず、膣外射精にしてその夜は部屋に引き上げた。社員が来たらとスリル満点で異常に興奮した。

④ 後日、車に彼女を誘った、人影のない路地に車を止めカーセックスをした、彼女は旦那持ちだが欲求不満を漏らしていた、誘うと必ず答えてくれた！狭い車では横向きでお互いにまさぐりあってた、助手席を倒して、濡れた下着を下ろさせて横に寝させる、用意したゴムを自分で装着すると、上から覆いかぶさりピストン運動すると腰を持ち上げてきたが、たまらず2~3分で頂点に達しイクぞ～と言って彼女を促し一気に爆発させた、ぐったりして強く抱き着いてきた。

⑤ ある日、車で和歌山方面に行った帰り、きらびやかに飾ったホテルの前を通った

時、彼女から入ってみない　　と誘われ生れて初めての経験をすることになった、顔を合わせずに部屋に案内された。

部屋に入るとガラス張りの風呂があつて彼女の入浴シーンも見れるようになっている、一緒に入ろうと誘ったが、なぜか嫌がつた、一人で入り、はやる気持ちを抑え、上がると下着一枚になつていて、彼女に抱き着き、ヌレヌレのパンティをはぎ取つて異常に興奮した、自分では大きいと自慢の、張り切つた肉棒をおまんこに突つ込み、イキまくる彼女の喘ぎ声に一気に頂点に達してしまつた。その後、ふろ場に誘いお互の体を洗いながら乳くりあつてゐる間に、気が高まつてきつた、体を拭きながらベッドに導き 69 の態勢でお互いに性器をなめまくる、亀頭を飲み込み、舌で吸われ転がされ一気に高まつた、彼女の下の口からは汁がたらたら流れ敷布団はびしょびしょになつてゐた、よほど溜まつてゐたのか一気に噴き出したようで、早く〇〇ポコ入れて～突いてきて～とイキまくる喘ぎ声に 2 回目の頂点に一気に達してしまつた。

⑥ ある夏の日の終業後、女子新入社員の歓迎会を急遽社長の提案で行うことになつた、会社の前は行き止まりの道路で、格好の場所であった。長机の上には、酒、つまみも用意され、簡易の歓迎会が始まつた、何を言つても笑いころげる典型的な現代っ子でエロ話にも喜んで入つてきつた、一人、好みの子が向かいに座り、さしつさされつ、酔いも回つたころ、意外にも今から家に来ないと誘われた、二十歳前後の子に、我ながら驚いて、啞然としていると、手を引っ張り促されて行くことになつた。市営住宅の一軒家で二人の女の子で共同生活をしていた、一人の子は気を使つたのか居なかつた、若いのに経験があるらしく、座るとすぐに、ズボンの上から触つて、ほら！ほら！もう息子が元気になつてゐると、バンドを外し始め、あつという間にズボンを脱がされ、抱き着いてきたブラジャーをかなぐり捨てて、もんで吸つてと促してきつた、片方を揉みながら一方を吸いまくる、若いのに喘ぎ声はいつちよまいに色っぽい、あ～あ～い～と息が荒くなつてきつたその時、ちよつと待つてと優しくゴムをかぶせてくれ、息子さん元気ね！その声に年がいもなく興奮させられて、気が高ぶりたまらず、69 姿勢から彼女の赤黒い蜜部なめまくり舌を使ってクリトリスを刺激すると、あ～もうダメ！早く入れて突いて！突いて！と熟年女性にも負けない仕草に気が高ぶり彼女が求めるままに正常位でピストンを繰り返し、イク～という声に一気に頂点に達した。

⑦ 何日か経つたある日の夕方、ロッカーを見ると帰りに寄つてくださいと！丁寧な文書で書かれたメモが張り付けてあつた、先日のことが、思い出された、二十歳の子があれまでになるには、かなりの経験があつたと思われるが本人には聞けない！友達に聞くと水商売をしていてある男の紐になつた経験が有るらしいことが分かつたそれで納得した。家の帰り道なので寄ると待つてたかのように招きいれてくれた、先日は不覚にも襲われたが今日は、多少心の余裕があつた、身綺麗に着飾つた浴衣姿を見て余裕のたがが外れた、浴衣を脱がせる楽しみが増えたと思いながら用意されていたワンカップ大閑を飲み始めた、

水商売の経験が有るだけ男の喜ぶエロ話は上手く、私をその気にさせる、あからさまな元彼のセックス上手だった話を色気を交え面白く話してくれた、次第に酔いも回り浴衣を脱がす算段に入る、立ち上がりキッスをしながら、腰ひもを探り結び目をほどくとブラジャー無しの豊満な肉体が目に飛び込んで来た、乳頭が立って反り上がっているたまらず、乳首に吸い付きながら横に寝かせ右手で片方を揉みほぐす、揉み応えのある乳房で早くも悶え始めた泌部を触るとべつとりと濡れている、ゴム付けてねと渡され自分で装着した、たまらずパンティーを剥ぎ取り人指し指と薬指二本を割れ目に差し入れ、膣上壁を圧迫するとエロっぽいうめき声が早くも上がる、もっともっと強くして～とメス化したかん高い声に変わっていった。

⑧日曜出勤の時、昼までの仕事で、私一人だったので、亭主の彼女に電話すると、今から行くと返事があった、近くのマンションに住んでいたので30分もしたら、やって来た丁度昼頃になっていたので、二人で弁当を食べる事にした。近くの、コンビニで買って来て置いたもので、パックの酒一本も買っていた、応接室のソファーが有る部屋で、ガラス台の応接机で向かい合って、さけを酌み交わした、亭主のグチを相変わらず漏らす彼女だが、自分を構ってくれない寂しさが有るのだろうか、今日も朝からパチンコに出かけたらしく、終了時間まで一日中いるらしく、寂しく感じて、私を求める理由でもあるのだろう、食事を食べ終わり、酔いも周りソファーに並んで座りどちらともなく抱き合いキッスをかわしスカートの奥に手を伸ばし濡れた秘部をまさぐると息子も元気になって来た、彼女もいつものようによがり始めた、会社とは言え、昼間からは大きな声も出せず潜り声も次第に大きくなっていく、あ～い～はと言ひながら下着を降ろし、早く入れてと言わんばかりにソファに横になりチョット待ってと言つてゴムを取りだし、いきり立った肉棒にやさしく被せて秘部の割れ目に誘い込み、腰を振つて来た、どれだけピストンを繰り返しただろうか、頂点に達して思い切り射精した、彼女は目をつぶり興奮冷めやらぬ下半身の余韻にうつとりしている風でもあった。